

米国フロリダ大学 カンキツグリーニング病抵抗性品種を発表

[FreshPlaza](#) 2024年11月28日

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)は、フロリダ州フォートピアス市のインディアンリバー研究教育センター(IRREC)で開催されたミレニアムブロックの公開日に、カンキツグリーニング病(HLB)に対する回復力を示し、高い果実収量と果汁品質を維持する2つの柑橘類品種を展示した。20エーカー(8ヘクタール)のミレニアムブロック(IRRECの柑橘類試験ほ場)は、生鮮果実の品種と台木の評価に取り組んでいる。

IRRECで園芸生産を担当するUF/IFASのフラヴィア・ザンボン助教授は、トライアンフ(Triumph)と命名されたグレープフルーツとオレンジのハイブリッドと、UF-914と呼ばれるポメロハイブリッドの重要性を強調した。これらの品種は、そのHLB耐性で注目に値する。同助教授は、「ポメロの特徴である厚い外皮は別にして、UF/IFASのフレッド・グミッター教授が交配したUF-914の赤い果肉はグレープフルーツに似ている。すぐに市場に出せる果実が生産できる」と述べ、さらに、トライアンフがカンキツグリーニング病に対して並外れた耐性を示し、堅牢な濃緑色の樹冠を備え、果汁の品質と歩留りに関して業界の基準を満たしていると説明した。世界の高級品市場に対応するため、トライアンフを種無し品種に育種する計画が進んでいる。

この公開日には、参加者が果実を試食する機会が提供され、UF-914はその風味と全体的な品質が好まれた。参加者は、柑橘類業界の関係者、UF/IFASの研究者、及び様々な柑橘類研究機関の代表者等であった。

フロリダ州農業・消費者サービス局のトレバー・スミス植物産業課長は、耐病性果樹の開発、キジラミの駆除、共同研究の取り組み等、カンキツグリーニング病に対抗するための包括的な戦略の重要性を強調した。同課長は、ミレニアムブロックを、現在の課題の下で高品質な果実を生産する品種を特定するための協力的な取り組みの代表例として賞賛した。

出典: [Citrus Industry](#)

(関連記事) ブラジル 新産地のグリーニング病対策に殺虫剤が有効

[FreshFruitPortal](#) 2024年11月20日

試験では、柑橘類の生産が拡大している地域におけるHLBに対する殺虫剤の有効性が示された

ブラジルでは、サンパウロ州北西部に隣接するトリアングロミネイロ地域(ミナスジェライス州)やマツグロソドスル州など、新たな地域に柑橘栽培が広がっている。この産地の移動は、カンキツグリーニング病(HLB)の原因となるキジラミの効果的な制御を維持し、罹患した植物を排除することの重要性を際立たせている。

この問題に対処するため、Fundecitrus(柑橘類栽培防衛財団)はこれらの地域で殺虫剤の試験を開始し、初期の評価では、キジラミが耐性を持つ一部の薬剤も有望な結果が観察された。Fundecitrusの研究者であるマルセロ・ミランダ氏は、この発見を非常に有望なものであると表現している。(以下「」は同氏の話)

「これらの地域の商業的果樹園ではキジラミの個体数が少ないため、非商業的果樹園や近くのギンバイカ(銀梅花)の木からサンプルを収集した。一般的に、他の地域で既に良好な効果が見られる系統の殺虫剤は、殺虫率が高いことが観察された。良い知らせは、ピレスロイド系とネオニコチノイド系の薬剤も有効性を示したことである。」

Fundecitrusは、これらの結果は、新しい産地の柑橘類生産者達がローテーションで使用できる殺虫剤の範囲が広がることを意味するとしている。

また、ミランダ氏は、作用機序の異なる少なくとも4種類の薬剤を使用し、園地で使用する前にその有効性をテストすることの重要性を強調した。「専門家は、ウェブ上にある当財団のキジラミ評価サイト(Avalia Psilideo)を通じて情報にアクセスできる。もちろん、各地域の当財団の農業専門家に相談することもできる。」